

大阪ヒト元氣録

大阪市内を拠点に活動するインド古典舞踊グループ「マルカタンス ユニティー」(Margadance Unity)を主宰する。ダンサーとして神社、仏閣での奉納舞、イベントへの出演などで演技を披露する傍ら、自身の教室や府外の県立高で特別非常勤講師を務めるなど指導、普及にも力を注ぐ毎日だ。

ふとしたことからインド古典舞踊に目覚め、はや20年。関西日印文化協会の理事としても、両国間の文化交流

今こそ心の豊かさ

両手で「女神」のポーズを取るふじわらさん

流の懸け橋となるべく活動するふじわらまなみさん。同市港区は、「踊りで『祈り』を表現するのがうれしい」と充実感をにじませている。

■偶然がきっかけ
サリー姿での実技指導。しかしインド舞踊と出合った19年前は、

それまで「信心深い生活とは縁がなかった」というものだった。転機は音楽を介したある集まりに参加した時のこと。初対面の女性から体験レッスンに誘われたことがきっかけだったという。

それまで習ったフラメンコやジャズダンスは肌に合わなかったが

ふじわらまなみさん



「南インドの音楽は体で渡印するほど熱狂的リズムが楽しく、引かな『信者』となり、それが現在では生活の中撃の出合い。以来、1心となっている。」

■神々への感謝
南インド発祥の古典舞踊・バラタナティヤムは、神々への感謝を

表現する踊りがほとんど。「今まで見えるものしか信じていなかった」というふじわらさんにとって大きな転換期となった。神々への畏敬の念に触れたことは、自身のライフスタイルにも変革をもたらす。

あるインド。日印の「交流」を活動のキーワードに据え、「経に翻弄されず、手をを立ち上げ、環境について考える機会を積極的に設けている。それは舞踊の延長線だ。「大地の恵みに感謝し、や文化を通して、今、心の豊かさが必要だ」ということを伝えてい経済発展のさなかにたい

日印の懸け橋「環境」にも力

○…親しみを込めて話しかけてくれるふじわらさん。飾らないキャラクターも魅力の一つだ。舞踊を生活の基点にし、「知っていくと見直さなあかん」と思ってもらえるはず」と環境問題の啓発にも精神的に取り組む。中でも最近の興味は原子力発電だ。自身の繰り広げるといってきな活動が、今は「だいたいぶつながってきた」と話す一方、「自分の中でまだ眠っている感じ」という印象も。今後の展開に目が離せない。
(藤木俊治)